

様式（第8条関係）

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	令和2年度益田圏域定住自立圏共生ビジョン懇談会
開催日時	令和2年8月18日（火）13:30～15:30
開催場所	益田市役所本館3階大会議室
出席者	<p>○出席者</p> <p>[懇談会委員]</p> <p>松本委員（会長）、金子委員（副会長）、立石委員、小澤委員、田村委員、森田委員、齋藤達雄委員、小川委員、村上委員、齋藤遼委員、</p> <p>[事務局]</p> <p>益田市政策企画局 島田局長          益田市政策企画課 志田原課長、山本課長補佐、狩野主任主事          岡藤主任主事</p> <p>[連携自治体]</p> <p>津和野町つわの暮らし推進課 楠課長補佐、村上係長          吉賀町企画課 深川課長</p> <p>[事業担当課]</p> <p>益田市人口拡大課 清水課長補佐、吾郷係長、橋本係長          益田市健康増進課 齋藤課長、地域医療対策室 山路主査          益田市農林水産課 椋木課長          益田市観光交流課 藤原主査</p> <p>○欠席者</p> <p>[懇談会委員]</p> <p>喜島委員、原委員、齋藤靖委員、伊藤彰委員</p>
議題	<p>○益田圏域定住自立圏の取組について</p> <p>○重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について</p> <p>○令和元年度実績、令和2年度取組予定の事業について</p> <p>○次期ビジョン策定に向けた今後の取組について</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0名
問合せ先	政策企画局政策企画課 電話 0856-31-0121

審議経過

1. 開会
2. 会長・副会長の選任
会長に松本委員、副会長に金子委員を選任。
傍聴の確認
傍聴人なし

3. 益田圏域定住自立圏の取組について	
○益田圏域定住自立圏の取組について事務局から報告（資料1）	
委員	<p>平成24年頃から関わっているが、会の性格が段々と整備されて、非常に総花的・計画的で抜け道がないようなものになってきた。</p> <p>資料は立派だが、行政や議会でしっかり検討されているものだと思うので、そこまでの内容はここにいる委員が責任を負うものでないと思う。</p> <p>あまり固すぎずに、いまこの圏域で何が足りていないのかなど、思い付きでもいいので、気楽に夢を話せるような会にしてほしい。</p>
事務局	<p>この度は新任委員もおられるため「益田圏域定住自立圏共生ビジョン」について改めてご説明差し上げた。</p> <p>懇談会は計画の進捗管理が主な目的だが、会の在り方については、様々な形があると思うので、委員のご指摘のとおり、ざっくばらんなご意見をお願いしたい。</p> <p>具体的な取組等については、益田・津和野・吉賀でそれぞれ状況等の違いもあるので、次の議題のところでご説明差し上げたい。</p>
4. 重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について	
○重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について事務局から報告（資料2）	
委員	<p>先ほど委員が言われた会の目的とも関連することだが、報告内容が個別の委員にとって違和感がないかというチェックはあると思うが、この資料だけでは個別の項目を達成することが何につながるのかというところが見えづらい。</p> <p>この会としては、もっと上位の項目についても説明してもらい、委員がそれについて議論し、更にまた事務局で具体的などころに落とし込めるようになればと思う。</p>
事務局	<p>上位の項目については、平成29年度に策定した「益田圏域定住自立圏共生ビジョン」に記載があるので、本来であればそちらと照らし合わせ説明すべきだったが、今回個別にお配りはしていなかったため、後ほど回覧させていただきたい。</p>
委員	<p>KPIをどのように設定したのかも分からないが、上位の目的があって、それを達成するために下位の項目があるはずであり、そのように中身につながるようなKPIでなければならない。</p> <p>例えば、「地域の担い手人材育成・確保事業」等は、開催回数よりも、何人参加したのか、評判はどうだったのかということの方が重要だと思う。</p>
委員	<p>県観光振興課「島根県観光動態調査結果表」について、調査の方法等、観光入込客数をどのように割り出して数値化しているのか。</p> <p>例えば、駅・空港・宿泊施設を利用しなくとも、海・山・川等に自家用車等で訪れ、車中泊等して帰る方もおられる。</p>
益田市 観光交流課	<p>観光動態調査については、グラントワや万葉公園等の主要観光施設でのスポット観測に基づいて数値化している。</p> <p>アウトドア系も調査では追っているが、全てにおいて正確な入込客数とはいえない部分もあり、測定方法については今後検討していきたい。</p>

委員	<p>そういう方はあまり地元にお金を落とすことはないかもしれないが、今後ニーズとしてどう拾い上げ、地元の施設等を利用していただくかが重要だと思い質問した。</p>
委員	<p>観光問題でいえば、中世益田と言いながら、三宅御土居の整備も遅れており、バスが停まって休憩し、雪舟庭園や船着場を見て回れるような場所もないが、もう少し観光に結びつけられないだろうか。</p> <p>鮎の漁獲量も減っており、これで鮎の産地と言えるのだろうか。鮎釣りに来る人も少ないようだ。</p> <p>圏域で周遊し益田で泊まってもらえば夜の街も面白い。数値を資料にして確認するだけでなく、観光はどうあるべきか議論し、雄大な計画を立ててもらいたい。</p>
5. 令和元年度実績、令和2年度取組予定の事業について	
○令和元年度実績、令和2年度取組予定の事業について事務局から説明（資料3）	
委員	<p>オリンピック・パラリンピックの事業に関して、オリンピックが延期になったことは致し方ないが、そもそもアイルランドのキャンプ誘致が目的だったように思ってしまう。</p> <p>邑南町ではキャンプ誘致は手段の一つで、福祉の充実している北欧のフィンランドという国と交流を始めることで、福祉の考え方を取り入れ、市民への啓発を行っていくなど、目的をもっと先に置いているようだ。</p> <p>益田のこの先のビジョンや考えはどのようになっているのか。</p>
事務局	<p>オリンピック終了後に何をするかということについては、まだ具体的なものはないが、キャンプをきっかけにアイルランドとのスポーツを含めた文化交流は継続していきたいという大きな目標は持っている。</p> <p>現在は自由な行来ができていないが、オンラインで常に情報共有しながら関係づくりに努めており、次の交流に向けた意見交換をしている。</p>
委員	<p>スタートする時点で先のことまで考えておくのが理想だが、せっかくながつながったところなので、よりネットワークがつながるよう、しっかり仕掛けていっていただきたい。</p>
事務局	<p>意見交換をしていくなかで、例えば都会に行った子どもが田舎に戻ってこないなど、日本側にもアイルランド側にも共通する課題があることが分かってきている。</p> <p>どういう風にすればまちが維持できるのかといった意見交換も含め、今後の交流に向けたステップを踏んでいきたい。</p>
6. 次期ビジョン策定に向けた今後の取組について	
○次期ビジョン策定に向けた今後の取組について事務局から説明（資料4）	
委員	<p>今日の会議の一番の目的はここからだと思う。</p> <p>出席委員の皆様から、定住自立圏共生ビジョンに関する様々なご意見をいただきたい。</p> <p>こういう地域にすると、最終的に益田・津和野・吉賀で定住自立圏が形成できるのではないかというお話を、絵空事で十分だろうと思うので、是非とも活発なご意見をいただきたい。</p> <p>各市町行政でそれを落とし込んで事業を考えていただく。</p>

委員	<p>いきなり現実に引き戻すような話をして恐縮だが、いま様々な分野でコロナ対応というのが、医療機関はじめ特に観光や交通も大変な状況になっていると思う。</p> <p>コロナ禍のなかで、描いた通りに計画が進むと想像することは難しい。こういう状況がいつまで続くか分からないなかで、発想の転換や事業の展開が必要だと思うが、そのあたりのことは何か考えているか。</p>
事務局	<p>コロナ禍が終息していないなか、ウィズコロナ・アフターコロナといったコロナ対策という観点を取り入れるかどうかも含め、参考にさせていただきたく、ご意見をいただきたいと考えている。</p>
委員	<p>コロナの問題は非常に難しい。まだ起こって8ヶ月程度であり、将来いつまで続くのか、というところも見当がつかない。</p> <p>どんな計画を立てようとしても人は集まりにくいだろうし、そのなかでできることをどのようにやろうかと考えることも非常に難しい。</p> <p>それでも、ある程度克服することを考えれば、ここが安心して住める場所だということを出していかないといけないだろう。医療をきっちりサポートしていかないといけないし、医療をサポートすることが、経済を支えることにもつながる。皆さんからもご意見をお願いしたい。</p>
委員	<p>コロナの話でいえば、いまは非常に厳しいが、益田圏域の定住人口や交流人口の拡大にとっては、逆にチャンスではないかと思う。コロナで都会の人たちの考えが変わってきていると思う。</p> <p>自分は魚釣りが趣味だが、釣り業界は盛り上がってきている。ディズニーランドのような作られた観光に行くのではなく、魚釣りであれば、三密も避けられるということで、自然のレジャーが注目されている。</p> <p>都会では外出自粛ということで、マンションから一步も外に出られず、息苦しい思いをしている人も多い。都会で一旗あげるといった価値観が変わりつつあるところに向けて、コロナ終息後の移住者の受入れや自然環境を活かした観光の受入れを整備しておくことで、アフターコロナに対応できるのではと考えている。</p>
委員	<p>交通業や観光業については、コロナの関係でほとんどお客さんが来ないが、また世の中が旅行に行こうかという雰囲気になり、動き出すときに備え、いまは準備をしている。</p> <p>例えばチラシを打つにしても、旅行の行先ではなく三密対策等の対策をした安全な旅行を企画しているということをアピールするなどして、今後営業をしていこうとしている。</p>
委員	<p>委員が言われたように、マスクや除菌、換気等を行っているが、現状ではまだ先が見えないので、少なくとも最低限のことをやっていこうとしている。</p>
委員	<p>津和野町の観光について、コロナが始まってから、観光客も入らず、かなりの打撃を受けている。8月1日からSLやまぐち号が運行を始め、少しは人が入り、また、GoToトラベルキャンペーンの関係もあり、人が動き出してはいるが、やはり苦しいことには変わらない。</p> <p>津和野町の観光は観光客頼りというところがあり、コロナの関係でお客さんは激減したが、地元の飲食店や土産物店は、色々な補助がありながらも、いまのところどうにか踏ん張っている。</p>

	<p>そこで皆が気付いたのは、観光客にお金を落としてもらうのも、地元の方にお金を落としてもらうのも結局同じだということ。身内でお金を回すというのもある意味で観光といえるので、町民や近隣住民に向けて呼びかけるという動きが出始めている。</p> <p>せつかく共生ということなので、益田・津和野・吉賀のお隣同士で、気軽にそれぞれのお店に回ってもらえるような施策を、行政も民間も含めて考えられるような事業ができないかと感じている。</p> <p>津和野町は津和野町として単独で観光施策をやっているが、それを飛び越えて、市町で連携して一つのをやるということは、いままであまり記憶にないこと。</p> <p>同じ目的に向かって集まりを作って、圏域内の人を動かすんだという施策を一緒に考えていければ、多少は経済も潤っていくと思う。</p>
委員	<p>いま診察をしても、患者さんが自粛で全然外出しなくなっている。出掛けるマインドそのものがなくなっている。仕事で行来はあるのに、観光ははばかれるようなところがある。</p> <p>ちゃんとマスクや消毒をして、近場でお出掛けしてみませんかということから考えてみてはどうかと思う。益田の人が津和野や吉賀に行って、その魅力を発信する方法もある。足元を見直してみて、逆に、圏域の一体感が醸成される可能性もある。</p>
委員	<p>人材確保に関しては、医療従事者についてしか挙がっていないが、他の分野では人材確保の問題はないのだろうか。</p> <p>六日市病院では、日本人の人材だけでは数が足りないので、現在はベトナムから10名の方が、学びながら働き、介護の分野で活躍していただく取組を行っている。</p> <p>こうした外国人の人材確保もメリット・デメリットがあり、定着に向けた課題もあると思うが、他の分野のお話も伺ってみたい。</p>
委員	<p>益田の医師会でも今年度ベトナムの人材を活用しようとしているが、このコロナの影響でなかなかできていない。いま中国や韓国からの留学生もいるが、母国に帰れない、帰りたくない、韓国は就職難なので日本で就職したいという声も聞く。</p> <p>いままでは、東京の人を島根や益田に呼んでこようという発想で、ターゲットは都会にいる日本人だったが、日本国内で働く中国籍の人だけでも、80万人いるとされており、島根県の人口より多い。</p> <p>そういった人達をどうやったら取り込めるか、日本で益田を選んでもらえるようなアプローチをするか、そういうアプローチができていないように思う。</p> <p>いまも何人かイギリスやカナダからも益田に住んでいる人がいるが、なかなかいい素敵なまちだが、なぜ宣伝しないのかと言われる。アイルランドを通じてでも、日本に興味を持っている海外の人に発信し、海外の人に益田に住んでもらうという発想があってもいい。</p>
委員	<p>私も35年くらい東京に住んでいたが、益田は地震もなく、大雨も降りにくく、火山もない。それほど温暖でもなければ寒くもない。日本の中でもとびきり安全な場所という視点をアピールすれば、もっとここに住みたいという人がいると思う。</p> <p>それに加えて、UIターン者を呼ぶときに、そういう人たちも行政と連</p>

	<p>携して企画をし、人を呼んでくるような仕組みがあるとよい。そういう人たちは人生をかけ定住をしてきて、やる気もあるし、その場所が好きで、素晴らしさも分かっていると思う。</p> <p>益田圏域のポテンシャルからすれば、もっと UI ターン者が来てもおかしくないと思う。総合力を発揮して取り組むことをお願いしたい。</p>
委員	<p>過去に災害がなかったわけではないが、確かに地震等の災害が少なく安全な地域ということは、工業団地等もあるので、アピールすることは大事だと思う。</p>
委員	<p>恵まれた自然環境にあるということは全く同感であり、大いに売りになると思う。例えばグリーンライン 90 では、匹見を通して美濃地屋敷や古墳群を見たり、美都を通して温泉に入って帰れる。</p> <p>大学時代の同窓会を益田で開催した際に匹見峡等を訪れたが、こんなところがあるのかと大変驚かれた。</p> <p>広大な森林資源をどのように活かしていくのか、どのような問題点があるのかについても知りたい。地元の大事な第一次産業なので、委員を増やしてでも、と思う。</p>
委員	<p>地方の人は東京に行って、うちの田舎はいい、うちの田舎は自然が多いという。東京から益田まで飛行機で 90 分だが、東京の周りに車で 90 分で行ける益田より魅力的なまちがあるのだから、もっとすごいものがないと、東京から益田までエネルギーやお金を使ってわざわざ来ない。</p> <p>それと、地方都市全部に共通していえるが、発信する力が弱い。東京の人たちのキャッチする力も弱い。そのなかで、何か目立ったことや、何か光ることをやっていかないといけない。</p> <p>島根県で一番高い山は恐羅漢山、島根側からは広見から上がるルートがあるが、整備されておらず広島側からしか登れない。いまの時代はむしろ厳しいルートがいいとの声もあり、そうした発想も必要だと思う。</p>
委員	<p>今日の自由討議で出てきた内容をまとめて、次期ビジョンの項目として付け加えて、できれば予算もつけて、やっていくという流れになればいいと思う。</p> <p>交流人口・定住人口という観点からは、益田圏域の良さを再度まとめて、しっかり情報発信するよう、次期ビジョンに落とし込んでほしい。</p>
事務局	<p>今日の議論で、様々なご意見をいただいた。新しい事業を追加するか、いまある事業を見直してより良い事業にするか、今日いただいたご意見を色々と組み合わせて考えていきたい。</p>
委員	<p>3 市町の横の協働というのが大きなテーマだと思う。それができたら、国・県・民間等との縦の協働が次のステップだと思う。</p> <p>民間の団体が国や県に要請してもいい顔をされないこともあり、そのあたりを取りつなぐような協働の促進や、民間同士のつながりをつくるような手助けを次期ビジョンに期待したい。</p>
委員	<p>いままでの計画では、医療に対する取組は、かなりの手厚い施策を施してもらったと思っている。しかし、近年、鹿足地区においては先生方の高齢化が進み、診療科の減少が続いている。</p> <p>いままでの計画においては、具体的取組といいながら、間接的な取組みだったと思うので、鹿足地区としては、医療体制の維持に向け、より</p>

	<p>具体的に病院の維持も含めて、次期計画に盛り込んでいただかなければ、かなりの医療サービスの後退は避けられないと考えている。</p> <p>もしできるようであれば、よろしくお願ひしたい。</p>
委員	<p>35年前に医師会病院をつくったときの会長は当時50代前半であり、副会長も含めて、ほとんど皆50代だった。いまはもうひと回り上になっており、益田の医師会もそれくらい人が少ない。</p> <p>これはもうどうしたらいいかといえば、病気にならないでもらいたい。そのためにはきちんと健診を受けて、予防の段階で摘み取ること。現実には40代以上でやっている健診でも、益田圏域は受診率が低い。</p> <p>きちんと行くように言わなければならないし、そのことが救急医療を減らし、医師の負担を軽減することになる。きちんと健診に行き、健康管理すれば、遊びに行くこともできる。</p> <p>いまの公共交通機関では、匹見の奥から益田の日赤に掛かってその日のうちに帰ることはできないので、そのための交通インフラもきちんと維持しなければならない。</p> <p>他方で、高齢者の配食サービスについて、弁当代は500円だが、実際は1,500円くらい掛かっており、行政が差額の1,000円を負担している。そうしたコストをどう考えるのか。</p> <p>地域の高齢者に中心部に移住してもらい、配食や除雪などのコストを下げて、定住関係の予算を捻出するなどといったことを、考えなければならない時代が来ている。</p> <p>限界集落の問題を話すと、絶対反対されるが、匹見や高島は集団移住した。住んでいるときはそこが一番だし、移住してからもしばらくは前の方がよかったというが、数十年したら、やっぱりあの時、思い切って家を捨てて移住して良かったと言われる声を聞いてきた。</p> <p>UIターンでも、空き家や限界集落を紹介するのであれば、そこでインフラ整備等にどれだけコストが掛かるのかを考えておかなければ、立ち行かなくなる。</p> <p>定住自立圏のことを考えるときにも、今後コンパクトシティにして、どれだけ住民サービスを集中させるかを考えておかなければ、ますますお金が掛かり、身動きが取れなくなる。</p>
7. その他	
委員	<p>次の会議はいつごろ開催の予定か。</p>
事務局	<p>来年度の夏頃にはやりたいと思っている。来年度は次期ビジョンの策定に向けて、最低2回は開催したいと考えている。</p> <p>1回目の会議では、今日いただいたご意見等をもとに、事務局で骨子案を作成してお示し、また意見をいただきたい。</p>
委員	<p>もう少し人数の少ない会議であれば、ざっくばらんな意見も出やすいだろうし、それが肝だろうとも思う。</p> <p>様々な分野があるが、今日の話のベースに聞いて歩けば、アイデアが出てくるし、もう少し中身の濃い話ができると思う。</p>
事務局	<p>検討させていただきたい。</p>
8. 閉会	